

**山形県立荒砥高等学校同窓会
関東支部**



支部報

スクールカラー・紫

令和8年8月

発行：山形県立荒砥高等学校同窓会 関東支部

事務局：〒359-1141 埼玉県所沢市小手指町1-7-C-605 長谷部誠方 TEL.04-2939-2606



台の沢の桜

「荒高は元気です。そして
総会で皆さんに会いたい」

荒砥高校同窓会 関東支部
支部長 別府忠雄



また、校長先生のお話によれば、部活動も盛んで、特に囲碁の選手権では県代表に選ばれるなど、生徒たちが活躍しているとのこと。OBとして大変誇らしく感じております。

昨年の総会では、現役大学生を含む新しい会員の皆様にもご参加いただきました。今年も10月24日（土）、文京区の教育会館内・喜山倶楽部において総会を開催する予定です。ぜひお誘い合わせのうえ、ご参加ください。ますようお願い申し上げます。

新しい方々にご参加いただく一方で、残念ながら会を離れられる方もいらっしやいます。年齢にはかなわないと申しますか、誠に寂しい限りです。だからこそ、年に一度こうして旧友や同窓の仲間と集える機会を大切にしたいものです。

世界では依然として不安定な情勢が続き、物価も上昇しております。また、今年の夏も暑い日が続くことと思われます。皆様におかれましては、どうぞご自愛いただき、健やかに過ごしてください。

役員名簿

(関東支部役員)

支 部 長	別 府	忠 雄	昭和三十四年度卒
副 支 部 長	守 屋	一 郎	昭和四十九年度卒
副 支 部 長	山 川	昭 雄	昭和五十年年度卒
事 務 局 長	長 谷 部	誠	昭和五十年年度卒
会 計	長 谷 部	誠	
幹 事	風 戸	強	昭和四十四年度卒
〃	梅 津	好 春	昭和四十七年度卒
〃	信 夫	修 二	昭和四十九年度卒
会 計 監 査	空	席	
相 談 役	宮 城	文 井	昭和三十一年度卒
〃	大 金	民 子	昭和三十一年度卒
〃	紺 野	邦 夫	昭和三十三年度卒
〃	高 橋	勝 夫	昭和三十七年度卒
参 与	荒 川	繁 夫	昭和二十九年度卒
〃	我 孫 子	健 一	昭和三十四年度卒
〃	佐 藤	淳 一	昭和四十四年度卒
〃	鈴 木	芳 静	昭和四十六年度卒
〃	竹 内	容 子	昭和五十年年度卒

荒砥高校同窓会関東支部 2025年度決算報告書

自2025年4月1日～
至2026年3月31日(単位:円)

収 入		支 出	
前期繰越金	318,308	総 会 費(26名)	221,750
振込寄付金 (89名)	371,500	会 議 費	5,500
総会費 (26名)	246,000	印 刷 費 (支部報発行・振込用紙・他)	398,520
広告協賛金	0	通 信 費 (支部報発送・他)	79,051
雑収入 (預金利子・その他)	354	交 通 費	11,000
現金寄付金	5,000	その他・雑費(景品・他)	18,207
		寄付金振込振込手数料・他	28,471
		役員報酬	0
		支出合計	762,499
		繰越金	178,663
合 計	941,162	合 計	941,162
		預金通帳	156,278
		手持ち現金	22,385
		次期繰越金	178,663

上記の通り相違ない事を報告いたします。
2026.3.31

荒砥高校同窓会 関東支部 2025年度会計監査報告報告書

上記決算書について、帳簿諸表等を監査いたしました結果、全て適正に処理されていることを認めます。

2026.4.20

会計監査 別 府 忠 雄 ①

會計監査 印

事務局だより

会員の皆様には日頃より大変お世話になっております。

また、日頃から同窓会活動にご理解を賜り、ご寄付をいただいております皆様には心より感謝申し上げます。

昨年の支部報でもご案内いたしました。が、近年の物価上昇に伴い、ご連絡のいただいていない方への支部報の郵送を終りました。もしお知り合いの方で郵送をご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局 (aprilshower@com.zaq.ne.jp) までご連絡いただくとよろしくお伝えください。折り返し郵送させていただきます。

また、支部報は荒砥高等学校のホームページでもご覧いただけます。下記二次元コードをご利用ください。



(長谷部 誠)

◆ 編集後記 ◆

支部報作成にあたり、丹野校長をはじめ多くの関係者、同窓生の皆様のご協力を得、本年度も無事皆様にお届けすることができました。寄稿にご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

町・学校一体となって「小規模ながらも魅力ある高校」に向け「荒高ワシチーム」で取り組まれている様子に感謝の気持ちで一杯です。

今後も母校について現状や生徒会の活動・活躍など、又幅広い同窓生の「声」をお届けさせていただけばと思っております。そしてこの支部報が年一回故郷や母校を思い懐かしんでいたたくツールとして少しでもお役に立てれば幸いです。引き続き皆様方のご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。

今年度の総会は10/24(土)に開催です。一人でも多くの同窓生の方々とお会い出来ますことを楽しみにしております。

(山川 昭雄)

「白鷹町とともにある

荒砥高校」

山形県立荒砥高等学校

校長 丹野 陽



4月より校長を務めます丹野 陽と申します。令和5年度に教頭として勤務して以来3年ぶりとなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。荒砥高校同窓会関東支部の皆様には、日頃より本校教育活動へ多大なるご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

母校では、令和8年3月に30名の生徒が卒業し、同窓会に入会いたしました。4月8日の入学式では、新たに31名の新入生を迎え、全校生84名で令和8年度をスタートし、5月8日には創立78周年を迎えました。



6月11日には三行事の1つ、スポーツ祭が行われました。今年、生徒のアイデアでダンスの内容を自身で決めるなどの工夫が見られ、その成長を

強く感じました。

さて、本校は令和2年度より1学年1学級となりました。当初は統廃合の対象として危ぶまれた時期もありましたが、同窓会の皆様や白鷹町等から多大なるご支援をいただき、「地域とともにある高校」として存在を確立しています。

現在、様々な背景をもつ生徒たちが学んでおりますが、職員一丸となった教育の成果が現れ、中学生の頃から見違えるような成長を遂げております。その結果、中学生や保護者からの評判が良く、地域の方々からも「なくてはならない学校だ」との評価をいただいております。県内7校ある1学級規模の全日制小規模校の中で、お陰様で充足率（定員に占める入学率）は最も高くなっております。生徒や保護者、地域、同窓生の皆様からさらに必要とされ愛される高校となるよう、職員一同全力で教育活動に取り組んでまいります。

同窓会の皆様におかれましては、今後とも引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

関東支部の皆様へ

荒砥高等学校同窓会

会長 青木 彰 榮

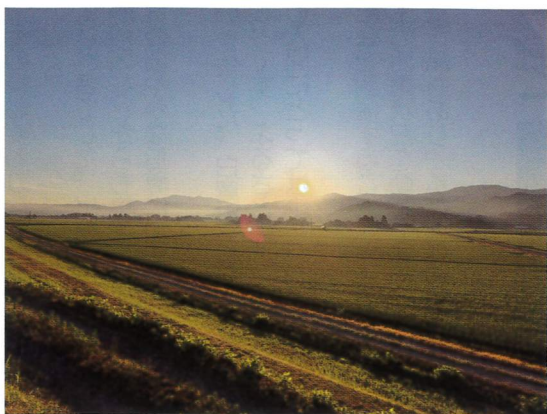
(昭和47年度卒)



同窓会関東支部の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。遠く離れた関東の地においても、母校を想い、日頃より同窓会活動にご協力・ご尽力いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

また、皆様お一人おひとりが、それぞれの道で努力を重ねられ地域や社会の中で活躍されていることは、母校の誇りでもあると思います。

さて、白鷹町の出生数が40人前後という状況のなかで、小学校の在り方についての議論が始まろうとしています。その人数が中学校の卒業生数となります。2021年から10年後に思いを馳せると愕然としてしまいます。そのような状況ではありますが、荒砥高等学校に対する白鷹町からの支援は、県内でも類をみないものです。それに呼応するかのよう、荒校生の地域における様々な活動も素晴らしいものがあります。学校創設以来「地域の学校」として脈々と教職員はじめ、行政機関、地域、PTA、後援会、同窓会の皆様方に、力強くお支えい



朝日出穂を照らす（浅立）

関東支部の皆様へ

山形県立荒砥高等学校後援会

会長 山田 仁

(昭和42年度卒)

様のご健勝を心から祈念申し上げます。

関東支部のOBの皆様には、日頃より何かとご支援をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

昨年度の総会にも出席をさせていただき、皆様の母校に対する変わらぬ想いに触れ、また、久しぶりに級友と会えたこと等、貴重な機会となりました。

さて、令和8年度の当校の新入生は三十一名でありました。少子化のなかで、この水準を維持できているのは関係者皆様のご理解の結果でもあります。

町当局も田宮修町長（荒砥高校卒）に代りましたが、当校への入学時助成金をはじめとする各種支援の継続を表明いただいております。私共後援会も、関係者一丸となって生徒の確保に取り組んでまいります。

私も極力学校に足を運んで、直に、生徒たちや先生方と接する機会をつくり、それを、町内外の企業の方々にも伝え、理解を得よう努めてまいります。

（昨年の文化祭のおり、飛び入りで「囲碁」を打つ羽目になった写真を添付します）



早春の思い出「ガタンゴトン」

未来に響け

一般社団法人白鷹町観光協会

専務理事 芳賀 敦子

(昭和56年度卒)

今年の桜は、本当に美しかった。我が町の古典桜群は、4月7日頃一斉に咲き始め、恒例になっている桜まつりの高玉芝居上演は、まさに桜吹雪の中、笑いあり涙ありの芝居見物日和となりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

さて、私も荒砥高校の出身で、卒業と同時に多くの友を荒砥駅から見送りました。一人しばらく電車を送り、最上川にかかる鉄橋を通過する頃、その電車の音が変わり、「あ、行ってしまったんだなあ」と、つくづく寂しかったのです。その音を毎日何回も荒砥駅にあるこの事務所で聞いております。そして、40数年前のあの時の、胸をぎゅっと締め付けるような思いが蘇ることがあります。しばらく電車を見送り、手を振る友が見えなくなると数秒後、鉄橋あたりでその電車の「ガタンゴトン」が一段と響くように変わるのです。置いて行かれたような気持ちになりました。

現在、赤湯―荒砥間で、方言ガイドさんがもてなすフラワー長井線をお楽しみいただく観光バスのお客様が、多い日です。



空からの白鷹古典桜2026

長い勘違い



松山 照夫
(昭和47年度卒)

何気なく観ていたBS放送の歌番組に青江三奈が真っ青のドレスで出ていた。高校2・3年の時の担任だった酒匂先生が何かの折に笑いながら「お前たちにはまだわからないだろうが」青江三奈ほどの綺麗な歌手はなかなかいない。」と言っていた。「池袋の夜」の大ヒットによりデビュー曲の「恍惚のブルース」のハスキーで溜息をつくような歌声がよく聴かれるようになっていた。恍惚などと言う言葉は聞いたことがなくイメージとして色っぽさを感じていた。そんな頃前の席の女子生徒が昼休み時間に一冊の本を読んでいた。「何の本読んでるの」と聞いたら「恍惚の人」と書かれた表紙を見せられた。恍惚と言う言葉にそんなイメージしかもっていなかったため（なんという艶めかしい本を読んでるんだろう）と思った。その後ベストセラーになり映画化やテレビドラマになったようだが観ることはなかった。20年も経った頃だろうか、会社の同僚との雑談の中で「実家の父親が恍惚の人になってしまっ

た。」の一言で長い間の勘違いがわかった。周りの大人との会話の中で「どこぞこの誰それがボケたそうだな」という話はたまに聞いてはいたが家庭内での介護の苦労まで考えが及ぶはずもなく毎日遊ぶ事ばかり考えていた。もしあの頃その本を読んでいたらもっと違った世界が見えていたんだろうと思うがなかなかそういった類いの本に手が出ない無駄な過ごし方だった。

でも中学生の頃観ていたNHKの人形劇の「ひょっこりひょうたん島」は本当に面白かった。

我がふるさとの山



清野 一弘
(昭和50年度卒)

今年の6月上旬、中・高校の同級生と還暦以来7年ぶりに再会した。その間の経年劣化は避けられず見かけは少し変わっていたものの、それ以外は7年前のままだったので安心した。

その際、寄稿の依頼があり何を書くか思案したが、白鷹生まれ（萩野）の私にとって故郷を語るとき白鷹山ははずせない。3市2町に跨る標高994メートルの山で、山頂には日本五大虚空蔵の一つ福満大虚空蔵尊が祀られている霊験あらたかな山だ。

萩野小学校の校歌は「はばたくすがた

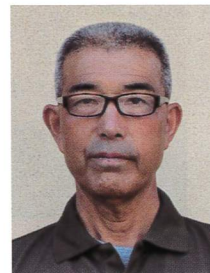


白鷹観測所からの眺め

たくましい、しらたかやまのそのふもと」で始まり、鷹山中学校は「雄々しき白鷹」、そして荒砥高校では「白鷹山のあきばらけ」と白鷹山が詠われている。高校ではバスケットボールに明け暮れ脚が上がらなくなるまで走り回った。部活後、残ったエネルギーを振り絞って、白鷹山に向かって上り坂を立ち漕ぎしたり降りて押したりグダグダ帰ったことは忘れられない。

現在山形市に住んでおり、山形市・白鷹ふるさと会に入っている。行事の一つに白鷹山登山があり、毎年5月中旬に中山登山口から山頂をめざす。山頂手前に、国土交通省白鷹レーダー雨量観測所がありその付近からパラグライダーでタンデム飛行ができる。飛んだことはないが、そこからの眺望は素晴らしい。また、山形市からも白鷹山を見ることができ、白鷹町から望む山系が最も美しいと思う。昨年は編集上の誤りにより別の原稿を掲載してしまいました。本号にて正しい原稿を掲載いたします

自衛隊経験で感じたこと



阿部 昇
(昭和50年度卒)

私は高校卒業以来三十五年余り自衛隊生活をして、その後は個人農業で約十五年過ごしてきた。高校の三年間は担任が酒匂純孝先生で、二年の時は他の数人と共に夏休み前の課題提出を拒んで約二週間位学校の中庭の草むしりをする事で提出を免除してもらった記憶がある。思えば私の忍耐力は酒匂担任の下で培われたようにも感じる。一時期の私の座右の銘は、継続は力なりであった。お陰で定年まで自衛隊で過ごすことができ、その後の農業でもなんとか生活することができていると感謝している。

ただ、そんな私はもともと自衛隊の入隊希望はなく、他の同級生の付き添いで受験したのがきっかけだから、人生とは判らないものだと今更ながら思っている。また、自衛隊とは生活から戦闘技術の基礎、専門技術や環境整備まで幅広いことに対応する必要があるため、日々違うことをすることが長続きすることにも繋がったと思う。自衛隊での生活で沢山の資格免許もとることができ、あらゆ

第二の人生

新野 昭裕
(昭和50年度卒)

昭和51年に荒砥高校を卒業後、神奈川県警察に拾ってもらい、42年間の警察人生を全うすることができました。そのうちの半分は、ドロボウ担当の刑事としてなんとか無事に定年を迎える事ができました。現在は、第二の人生として、近所の幼稚園バスの運転士をやって、早9年目を迎えました。毎日元気に登園する子供達の笑顔と安全を守る事が、今の私の大きな生きがいです。

そんな中、昨年10月に開催された関東支部同窓会に初めて参加させていただきました。最初は旧友の顔がわかるか不安もありましたが、会場に一步入れば懐かしい山形弁が飛び交う温かい空間が広がっていました。先輩や同級生の皆様と

軽井沢キャンプのこと

小関 新治
(昭和48年度卒)



軽井沢キャンプに行ってきました。この辺だったかと探しましたがなかなか

故郷の思い出や近況を語り合う時間は瞬く間に過ぎ、同郷の絆の深さに心が安らぐ感じがしました。子供達から元氣をもらう日々ですが、同窓生の皆様から最高の活力をいただいた一日となりました。温かく迎えてくださった皆様に深く感謝申し上げます。今後も皆様が健やかに過ごされ、また、笑顔で再会できる日を心より楽しみにしております。

が見つけることができました。ようやくコンクリートをみつけました。ただキャンプ場の面影はなく山が広がっているばかりでした。キャンプ場として使われなくなっている長い年月を感じました。高校の時にキャンプをした時の楽しき思いがよみがえってきました。まだ未来しか見えない若い時代でした。整備してくれていた方への感謝の思いが湧いてきました。生徒会役員の方々が整備してしてくれたのでしょうか。私はキャンプをただ楽しんだことを申し訳なく思いました。

続いて荒砥高校では白鷹町とフラワー長井線を盛り上げる企画を毎年行っており、今年は荒砥高校の3年生16人がそばを打って振る舞うそうです。そのため私どもそは振興会に講師の依頼がありました。私は趣味でそばを打ちます。私も卒業してから50年ぶりで高校へ行くことになり楽しみにしております。

担当教員は（この授業の目的は生徒が白鷹町の魅力を調べ来て下さった方々をおもてなしすること、自身が白鷹町の魅力に気づき白鷹町を好きになり町に残ってくれる生徒を育てることなのです。）この言葉にえらく感動している自分です。

私も白鷹町が好きです。

この年になると健康でありたいというのが願いとなっております。皆様もごう

荒高同窓会関東支部総会のご案内

日時：10月24日（土）11:00～14:00

場所：喜山倶楽部 「芙蓉の間」

東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館9階

電話番号03-3262-7661

神保町駅A1出口から徒歩2分

会費：9,500円

かお元気で過ごしてください。

荒砥高等学校同窓会関東支部の皆様方には、平素より本校の教育活動に対し多大なるご理解とご支援を賜っておりまして、深く感謝申し上げます。

本校に赴任して2年目を迎えました。荒砥高校を取り巻く環境の素晴らしさと、それに心惹かれる生徒たちの誠実な姿に、日々感銘を受けております。

現在、山形県では生徒一人一台の端末（パソコン）が三年間無償貸与されており、校内ではプリントのデジタル化や動画教材の活用、アンケート・感想のオンライン提出などが日常化しています。さらに本校においては、地元白鷹町から並々ならぬ教育支援をいただいております。新入生への10万円の「応援券」補助をはじめ、学習支援アプリの三年間全額補助、修学旅行費や免許取得費用の補助など、他県から視察に訪れた先生方が一様に驚かれるほど、全国的にも稀有な学習環境が整っています。また、学習支援員の先生方のバックアップにより「わかる授業」が確立されていることも、私たちの誇りです。しかし、何よりも誇らしいのは、その恵まれた環境に心惹かれるようにする生徒たちの「心」です。服装・身だしなみ点検では、ホー



駅からハイキング（荒砥高校から白鷹町について生徒が説明している様子）



おはなしの会（白鷹町図書館において子どもたちに読み聞かせ）



前期生徒総会（パソコンを見ながらの生徒総会）

充実した教育環境

・荒高だより・

山形県立荒砥高校 教頭

今井 隆

ムルム委員会が自ラクラスの仲間と注意を促すといった自律した姿が見られます。そして、自らの力で周囲を巻き込んでいく行動力も備わっています。

例えば、昨年度部員三名で臨んだ吹奏楽部の定期演奏会では、多くのOB・OGが応援に駆けつけ、会場を埋め

た約百名の観客の拍手に胸が熱くなりました。また、新たな試みである「駅からハイキング」では、生徒たちの熱意が遠く千葉県からの参加者をも惹きつけ、三十一名もの方々と交流を深めました。これらの成功は、生徒たちが素直に地元を愛し、「紅花摘み」や「産業フェア」、「おはなしの会」等のボランティアを通して地域との絆を築いてきたからこそです。ここには語り尽くせないほどの取り組みがあり、まさに「生徒一人ひとりが主役になれる」素晴らしい教育環境が整っています。学校ホームページでも、生徒たちの弾けるような笑顔がたくさんご覧いただけますので、ぜひ一度アクセスしていただければ幸いです。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

白鷹での生活報告

荒砥高校同窓会 関東支部 副支部長

守屋 一郎
(昭和49年度卒)

平成29年7月、白鷹町の実家に単身戻りました。母が亡くなり一人となった父の生活をサポートする為です。その父も

もうすぐ97歳。最初戸惑ったのは食事です。当時は再雇用で仕事もしていたので昼は外食、父も自分で食事の準備出来ていたのでそんなに大変ではあり

萩野のそば畑



ませんでした。再雇用が終わると三食準備するとなると負担でした。特に父は過去に食べていたものに執着し、私の好みとの調整に苦心しました。しかし、今では時間もあるので父用と自分が食べたものを分けて、スマホ検索で自己流料理を楽しんでいます。

父から引き継いだ農地も負の遺産となり、農業をしていた田畑の維持が大変です。田は地区の人に作って貰っていますが、畑は何も作らず専ら草刈りです。植物の生命力は驚くばかりで、彼らは雪が消えると眠りから目覚め、地下茎に蓄えたエネルギーを爆発させ一斉に活動し

成長を続けるのです。特に手を焼くのは葛（くず）ですが、先日ユーチューブで爪楊枝に染み込ませた薬品を根本に刺し駆除している動画を見ましたので早速注文しました。草を刈らず怠けていると近隣や親戚から注意が入ります。

その合間に昔から楽しんでいた卓球もやっています。地区のサークルに入っている大会を開催し、小中学生のクラブ活動を手伝っています。それを通じて思うことは、子供の数も少なく、ひとりひとりを大切に育てる伸び伸び学習もいいのですが、私から見ると練習ではミスを減らす工夫が不足し、試合では勝ちに拘る思いが足りないということです。もっと熱い気持ちを持って欲しいです。こんな私も70歳、同窓生の皆さんも年に一度荒砥高校を思い出して総会に顔を出して見ませんか？ 待っています。

SHIRATAKA RED

紅花生産日本一「日本の紅(あか)をつくる町」白鷹町
皆様の応援をよろしくお願いいたします

日本遺産
JAPAN HERITAGE

<ふるさと納税とは>

白鷹町を応援したい方と町が一体となってまちづくりを進めるため、白鷹町を応援したい方からの寄附金を募り、これを財源として各種事業を実施することにより、多様な方々の参画によるまちづくりを推進することを目的としております。

ポータルサイトはこちら↓

◆ 申込方法 ◆
ふるさと納税ポータルサイトからお申し込みください
※郵便、FAX、Eメールでもお申し込みいただけます。



<お問い合わせはこちら>

白鷹町ふるさと応援制度事務局
〒992-0892 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲 833
TEL : 0238-85-6126 / FAX : 0238-85-2128
E-mail : furusato@so.town.shirataka.yamagata.jp